二〇一九年五月一日（参加者二六名）

那智黒の径の一歩に庭若葉　ぽんこ

濃き若葉奈落を埋む一の谷　わかば

菩提樹の若葉あかりに大仏殿　なつき

春惜しむ比叡を望む寺庭に　はく子

春惜しむ海一望の高館に　うつぎ

小流れへ若葉洩る日のシャワーかな　明日香

目に染むや直哉旧居の窓若葉　せいじ

清流の天蓋なせる溪若葉　宏虎

打ち返す波に渚の春惜しむ　三刀

隊列にロードバイクや若葉風　うつぎ

まほろばの古都の小径に春惜しむ　もとこ

惜春の灯を洩らしゐる浮見堂　うつぎ

若葉雨空のどこかが明るくて　菜々

惜春や母の句帳の薄き文字　たか子

柿若葉少年の声よくとほる　やよい

厨窓おはやうと射す若葉光　明日香

百年を生きし母校の楠若葉　菜々

子規居士の文机に座し春惜しむ　なつき

丁寧に鍬を洗ひて春惜しむ　よう子

WEB句会みのる選・二〇一九年四月一日